編集後記：先日，某公共放送の撮影が気象庁の予報現業室で行われました．お笑い芸人の２人組が，普通は入れない場所に潜入してその秘密を探る，という人気番組です．「人命を左右する現場」と予報現業室が紹介され，尊敬する先輩予報官が取材対応に当たりました．

取材時には，天気図の作り方が取り上げられたと聞いていましたが，編集でカットされてしまったようです．筆者は，気象庁で天気図を作成するアプリケーションの開発を担当して今年で９年目．息子たちに「これがお父さんの仕事だぞ」と自慢しようと楽しみにしていたのですが……．

先輩が持っていた，番組から届いた質問用紙には「なぜ天気図を手書きするのか」とありました．天気図は計算機によって全自動で作成していると思われている方が多いのですが，事前打合せ等で，天気図作成作業を見て疑問に思われたスタッフがいらっしゃったのでしょう．気象庁の天気図は，専用のアプリケーションによって高低気圧，等圧線が自動作成された天気図案に対し，液晶ペンタブレットとスタイラスペンとを用いた，担当官による対話型の手作業で等圧線の修正や前線の付加などを行って作成しています．なお，本誌に連載している「日々の天気図」も，この手作業により作成した天気図が使われています．

前述の質問に対し，先輩は，「計算機は前線解析が苦手なので，手作業で作成している」と模範的な答えを準備していました．しかし，他の職員の思いにより，以下の回答案も追加されました．ある意味精神論ですね．

・等圧線を一本一本，気持ちを込めて描くため
・気象学的に意味のある曲線として等圧線を表現するため

天気図作成の担当官は，気象庁内で20名程度しかおらず，一般社会から見てやや異質な気象庁（笑）の中でも，さらにやや異質な，とてもマニアックな存在といえるかもしれません．彼らは，天気図を「書く」ではなく「描く」と表現します．非常に美しい天気図を描く“画伯”と呼ばれる同僚もいます．かつて，天気図作成用 PC のスクリーンセイバーは，「等圧線に魂を込めよ」という立体文字が踊っているものでした．また，先輩方は，こんな言葉を残しました．

・自然界には直線的なものは長時間存在し得ない．美しい曲線で表されるものだ
・等圧線は曲率が命だ
・天気図のうまい下手は，細かいところではなく，一歩引いて全体像を見て判断するのだ

３点目は，１，２点目と異なることを表現していると感じられるかもしれませんが，天気図は一歩引いて遠目で見た方が「大気の流れが手に取るように判る，気象学的に意味のある美しい曲線で描かれているか否かを判断しやすい」ということなのだろうと，筆者は理解しています．

あぁ，なんてマニアックで素敵な世界なのでしょう．みなさんもラジオを聴きながら天気図を描いていた中高生時代を思い出し，研究のため，予報作業のため，もう一度じっくりと，天気図を手で“描いて”みませんか！

（金田昌樹）